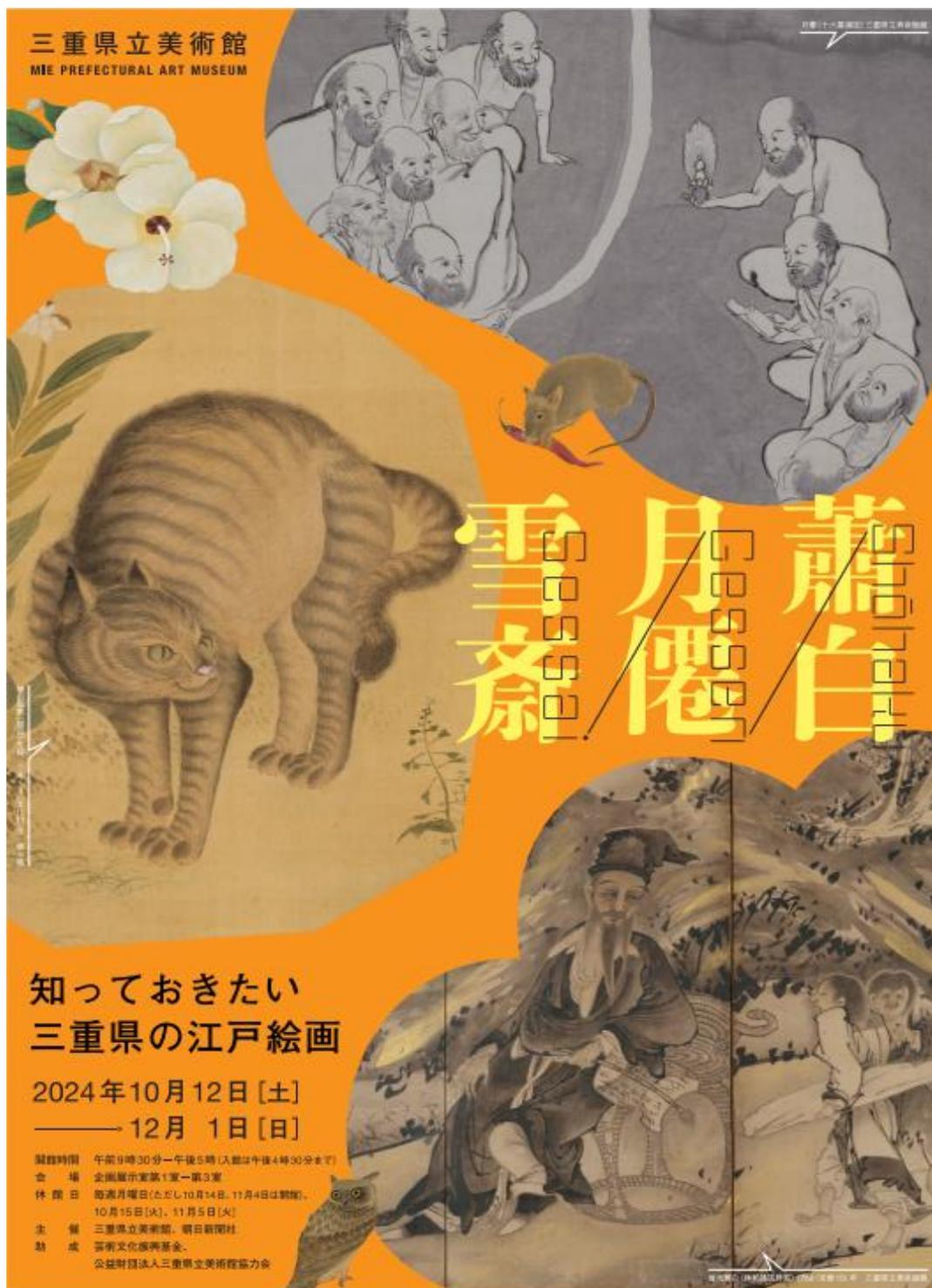


三重県立美術館
MIE PREFECTURAL ART MUSEUM



雪齋 / 月僊 / 蕭白

知っておきたい
三重県の江戸絵画

2024年10月12日 [土]
—— 12月 1日 [日]

開催時間 午前9時30分～午後5時 (入館は午後4時30分まで)
会場 企画展示室第1室～第3室
休館日 毎週月曜日(ただし10月14日、11月4日は閉館)、
10月15日 [火]、11月5日 [火]
主催 三重県立美術館、朝日新聞社
助成 芸術文化振興基金、
公益財団法人三重県立美術館協力会

11月16日(土)まで 三重県立美術館

後援 伊賀文化財団、伊賀市、伊賀市教育委員会、三重県立美術館

知っておきたい 三重県の江戸絵画

江戸時代の三重県が輩出した個性的な画家3名をご紹介します！

ひととき強烈な個性を放つ奇想の絵師・曾我蕭白（そが・しょうはく、1730-1781）、貧民救済のために絵筆をとった画僧・月僊（げっせん、1741-1809）、芸術と友情をこよなく重んじたお殿様・増山雪斎（ましやま・せっさい、1754-1819）。絵を描く立場も画風も三者三様。共通するのは、三重県の地で絵画を制作したこと、そして強い信念。彼らは世間から常識外れといわれようとも、独自の道突き進みました。

本展では、当館の所蔵する蕭白と月僊の作品に、国内随一の雪斎コレクションを交え、三重県の江戸絵画の多彩な群像を紹介します。

展覧会概要

会 期=2024年10月12日(土)~12月1日(日)

開館時間=9時30分~17時(入館は午後4時30分まで)

会 場=企画展示室第1室~第3室

休 館 日=月曜日(ただし10月14日、11月4日は開館)、10月15日(火)、11月5日(火)

主 催=三重県立美術館、朝日新聞社

助 成=芸術文化振興基金、公益財団法人三重県立美術館協力会

観 覧 料=一般700(600)円 学生500(400)円 高校生以下無料

「没後20年 柳原義達展」とのセット券[当日のみ]

一般1,000円 学生800円

* ()内は前売および20名以上の団体割引料金

* この料金で、2階常設展示室「美術館のコレクション」もご覧いただけます。

* 生徒・学生の方は生徒手帳・学生証等をご提示ください。

* 障害者手帳等(アプリも含む)をお持ちの方が観覧する場合、付き添いの方1名も観覧無料。

* 県内学校(小・中・高・特支)等が来館する場合、引率者も観覧無料(要申請)。

* 毎月第3日曜の「家庭の日」(10月20日、11月17日)は団体割引料金でご覧いただけます。

* 2024年12月2日(月)から2025年3月下旬まで、施設改修工事のため休館します。2025年度以降の再開館の予定につきましては、当館ウェブサイトにてお知らせします。

江戸時代の三重県を代表する画家 3 名をご紹介します!

●曾我蕭白（そが・しょうはく、1730-1781）・・・奇想の絵師、無頼の画家などと呼ばれ、近年人気が高い。京都の裕福な商家に生まれるが、10代で両親を失い、全国を遊歴しながら画家として身をたてる。伊勢（三重県）にも幾度か滞在し、現地に多くの作品をのこす。伝統的流派に属さず、独自の表現を追求。一方で、伝統的な水墨技法、画題をよく学んでおり、極めて高い水墨の技術をもつ

●増山雪斎（ましやま・せっさい、1754-1819）・・・本業はお殿様（伊勢長島藩藩主）。藩学の振興につとめるとともに、自らも芸術活動（詩書画）を行い、とくに画家として名高い。画技は基本的に独学である。好きなもの（中国文化、昆虫）を、自由に描いたという点が魅力。研究熱心な性格のため、その腕前は玄人はだしともいわれる

●月僊（げっせん、1741-1809）・・・本業は僧侶（伊勢寂照寺住職）。江戸や京都など都会での修業のかたわら絵を学び、新来の中国文化から影響を受けた流行の絵画を学び、独自の画風を確立。地元では、絵を売った財によって寺の再興や貧民救済に取り組んだ人物として、つとに尊敬される人物である

増山雪斎の幻の肖像画、89年ぶりの公開!

1935年に大阪城天守閣で展示されて以来、長らく行方不明となっていた文熙筆《増山雪斎像》を公開します。

会期中のイベント

*手話通訳・要約筆記、その他支援をご希望の方は、2週間前までにご相談ください

□ 連続レクチャー(申込不要・参加無料)

近年、曾我蕭白、増山雪斎、月僊の展覧会を企画した学芸員がそれぞれの“推し”画家について語ります

1.「曾我蕭白」

講師 由良 濯(愛知県美術館学芸員)

日時 10月20日(日)14時-(約60分)

2.「増山雪斎」

講師 村上 敬(三重県立美術館学芸員)

日時 11月3日(日)14時-(約60分)

3.「月僊」

講師 横尾 拓真(名古屋市博物館学芸員)

日時 11月17日(日)14時-(約60分)

会場 三重県立美術館講堂

定員 各回150名

当日先着順(直接講堂にお越しください。13時30分に開場します)

□ ギャラリートーク「雪斎侯に御目見」(申込不要・要観覧券)

本展の目玉である《増山雪斎像》を中心に解説します

講師 村上 敬(三重県立美術館学芸員)

日時 10月19日[土]、11月30日[土] 各回とも14時-(約20分)

会場 三重県立美術館企画展示室

広報用画像のご提供について

次ページ以降に掲載の画像を広報用に提供します。

ご希望の方は、注意事項をお読みの上、下記連絡先に希望の画像番号をお知らせください。Eメールにて画像をお送りします。

■掲載にあたってのお願い

- ・各画像下のキャプション(作品名、所蔵者名)を画像と一緒に掲載してください。
- ・作品画像への文字乗せ、画像トリミングはご遠慮ください。
- ・掲載物を1部、または紙面データを美術館にお送りください。
- ・ウェブサイト上に掲載する場合はコピーガードをかけ、転載禁止の旨を明記してください。
- ・画像データの広報目的以外の使用はできません。

■お問い合わせ

三重県立美術館 学芸普及課(村上, 道田)

TEL:059-227-2100(代表) / FAX.:059-223-0570

Eメール:bijutsu2@pref.mie.lg.jp

〒514-0007 津市大谷町11

<https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/>

Follow us on X @mie_kenbi



①曾我蕭白《松鷹図（旧永島家襖絵）》1764（明和元）年頃 三重県立美術館蔵



②曾我蕭白《林和靖図屏風》1760（宝暦10）年 三重県立美術館蔵



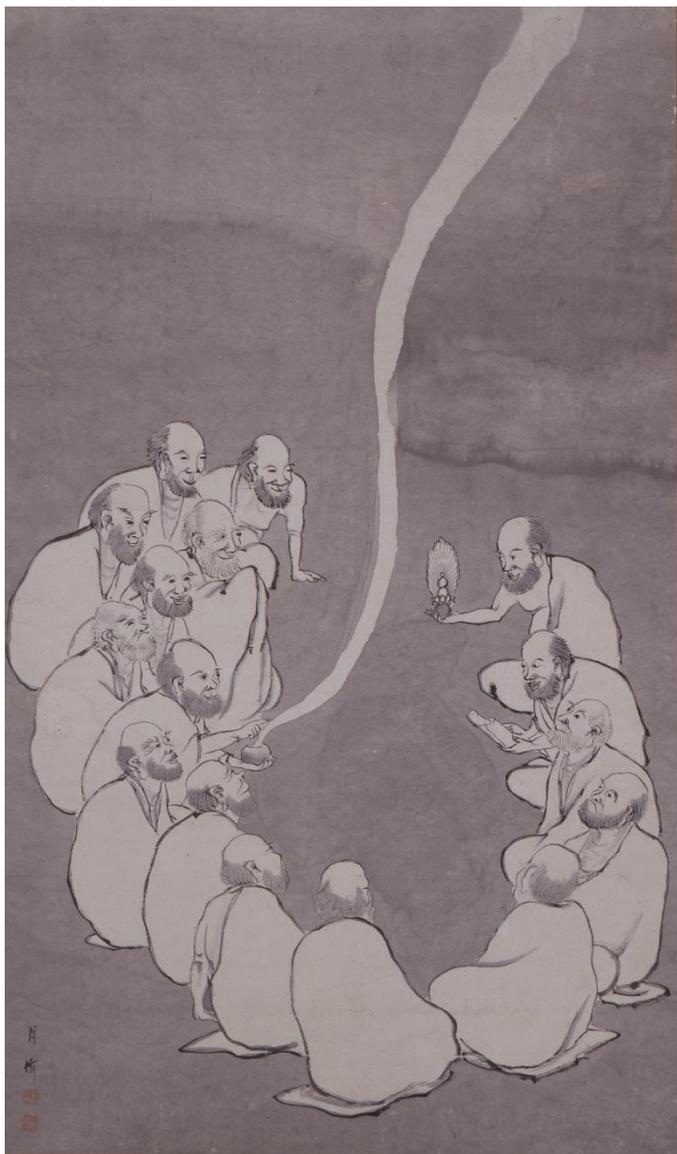
③增山雪齋《老松梟鳥図》

1792（寛政4）年 個人蔵



④增山雪齋《黄蜀葵に翡翠図》

個人蔵



⑤月僊《十六羅漢図》

三重県立美術館蔵



⑥月僊《鼠と唐辛子図》

三重県立美術館蔵